

1. JARC「国内避難民に対する衛生設備・給水施設の整備」



パイプを追加し、2ヶ所への配水を可能にした。



給水施設が設置され、衛生環境が整備された学校関係者（ホストコミュニティと IDP 両者が就学）。



事業で設置されたタンク（診療所用）。



1ブースを9世帯で共有。世帯管理が行き届き、清掃状況も良好（IDP 再定住地区内）。



IDP 再定住地区内の様子。



ホストコミュニティと IDP との合同治水委員会。



## 2. ICA「トゥルカナ南東沿岸における食料支援と水確保支援」



給水設備が設置されたコミュニティの子ども達。トイレ後の手洗いやシャワーが容易になった。



水汲みに要する距離と時間が大幅に短縮され、負担が軽減されると喜ぶ妊婦。



水管理研修によりコミュニティ内に植林や果樹栽培などを実践。水汲み負担軽減によりそれらに対応する余力が生まれた。



コミュニティ全体で支援への感謝の念を表す。



漁具布対象コミュニティ。支援により漁獲量が増加。



漁による収穫物を日干しにし、半分を商業用、残りの半分を家庭内消費用に。



### 3. ADRA 「給水設備の整備、小規模農業を通じた干ばつ対応力強化」



Ikusya Borehole。ソーラーパワーによる。管理人常駐で料金徴収、帳簿管理等を実施。



Borehole 近くにコミュニティで設置したトイレ。衛生指導を受けて自主的に作業を進めた。



サック農法研修受講者から指導を受けて野菜栽培を実践。



Mutwaathi Borehole の共同菜園。水管理委員会が菜園管理についても対応している。



Kanzui Borehole。エリア・チーフのとりまとめによる関係者の集い。



水管理委員会、村落保健普及員、女性グループの他、一般住民から状況確認。

#### 4. PWJ：「ダダブ難民キャンプにおける難民用仮設住宅建設（第2期）」 「ダダブ難民キャンプにて家庭用簡易トイレ建設」



当初導入された ISSB 工法によるシェルター。しかし、高価で、恒久性が高いため、難民には不向きとのケニア政府見解により工法変更へ。



ISSB 後に導入された、暫定的 T シェルター。但し、特に最近では、キャンプ内で同シェルターを切り裂いて侵入する盗難が続出しているとのこと。



困いがターポリンと言った T シェルターの難点を勘案し、ISSB との中間的位置づけを求めて、Improved Mud Brick 工法による試行品。現在、ケニア政府の承認待ち。



現行事業によるトイレ。現時点では身障者配慮がなされていないが、斜めに設置された部分を支えることで、多少なりとも負担軽減へ。



複数世帯共用から、世帯毎の設置に移行しつつあるトイレ。手洗い用を含め、水はコミュニティ共用。但し、水はけが悪く衛生上問題あり（他団体による活動範囲ではあるが）。



当初、その必要性を強調の上、予算計上がなされ、建設した、キャンプ内の PWJ コンパウンドの宿舎棟。しかしながら、状況変化により未使用状態。